



2023年3月期 決算説明資料

2023年6月13日
テイカ株式会社
(証券コード：4027)

目次

1. 2023年3月期 決算概要

- P 4 決算概要
- P 6 事業別売上高・営業利益
- P 7 機能性材料事業 売上高、営業利益増減要因
- P 8 電子材料・化成品事業 売上高、営業利益増減要因
- P 9 営業外損益、特別損益
- P 1 0 2023年3月期 貸借対照表
- P 1 1 2023年3月期 キャッシュフロー計算書

2. 2024年3月期 通期業績予想

- P 1 3 2024年3月期 業績予想
- P 1 5 2024年3月期 業績予想(事業別売上高、営業利益、EBITDA)
- P 1 6 機能性材料事業 業績計画
- P 1 7 機能性材料事業 営業利益増減要因
- P 1 8 電子材料・化成品事業 業績計画
- P 1 9 電子材料・化成品事業 営業利益増減要因
- P 2 0 経営指標

3. 付属資料

- P 2 2 長期経営ビジョン
- P 2 3 中期経営計画
- P 2 4 設備投資・減価償却費・研究開発費
- P 2 5 株主還元(配当金)
- P 2 6 会社概要
- P 2 7 事業紹介
- P 2 8 事業紹介(機能性材料事業)
- P 2 9 事業紹介(電子材料・化成品事業)



1. 2023年3月期 決算概要

決算概要

新型コロナウイルス感染症に対する各種規制が徐々に緩和され、景気の持ち直しの動きが見られたものの、原燃料価格の高騰に加えて、ウクライナ情勢の長期化や欧米の金融引締めによる景気の減速懸念等により、先行きは不透明な状況で推移しました。

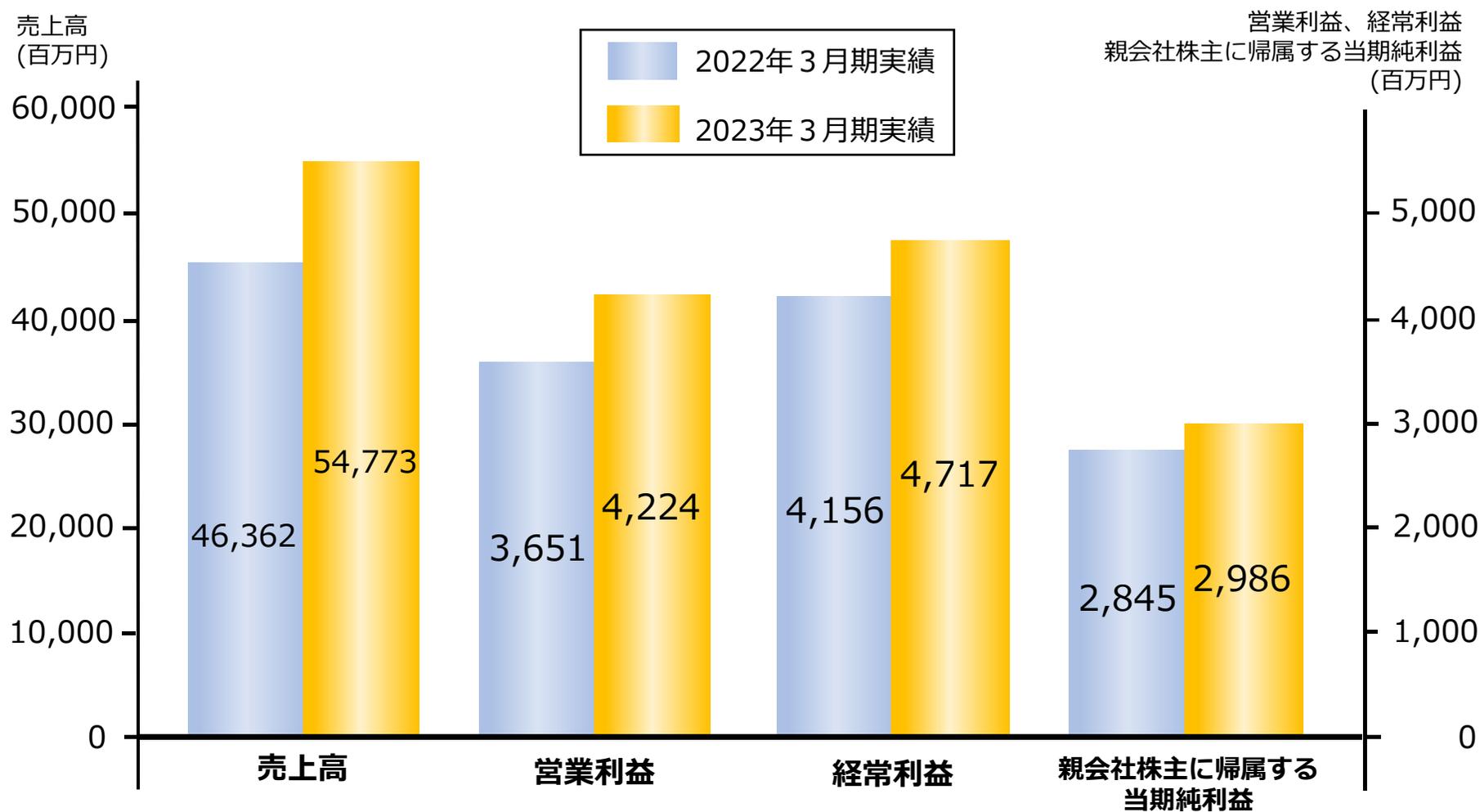
このような状況の中、導電性高分子薬剤はI C T機器などの需要低迷により販売が低調であったものの、輸出を中心に化粧品向け機能性微粒子製品の販売が回復したこと等により、売上は増加する結果となりました。

2023年3月 連結経営成績

	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	前期比 (%)
売上高 (百万円)	46,362	54,773	+18.1
営業利益 (百万円)	3,651	4,224	+15.7
経常利益 (百万円)	4,156	4,717	+13.5
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (百万円)	2,845	2,986	+4.9

決算概要

当連結会計年度の業績につきましては、売上高は547億7千3百万円（前期比18.1%増）、営業利益は42億2千4百万円（前期比15.7%増）、経常利益は47億1千7百万円（前期比13.5%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は、29億8千6百万円（前期比4.9%増）となりました。



事業別売上高・営業利益

(単位：百万円)	2022年3月期実績		2023年3月期実績		前期比 (%)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
機能性材料事業	22,827	998	27,130	2,221	+18.9	+122.6
電子材料・化成品事業	22,155	2,325	26,286	1,686	+18.6	- 27.5
小 計	44,982	3,323	53,417	3,908	+18.7	+ 17.5
その他	1,379	327	1,355	316	- 1.7	- 3.4
合 計	46,362	3,651	54,773	4,224	+18.1	+ 15.7

事業内容

【機能性材料事業】

主に酸化チタン、微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛、表面処理製品を製造、販売。

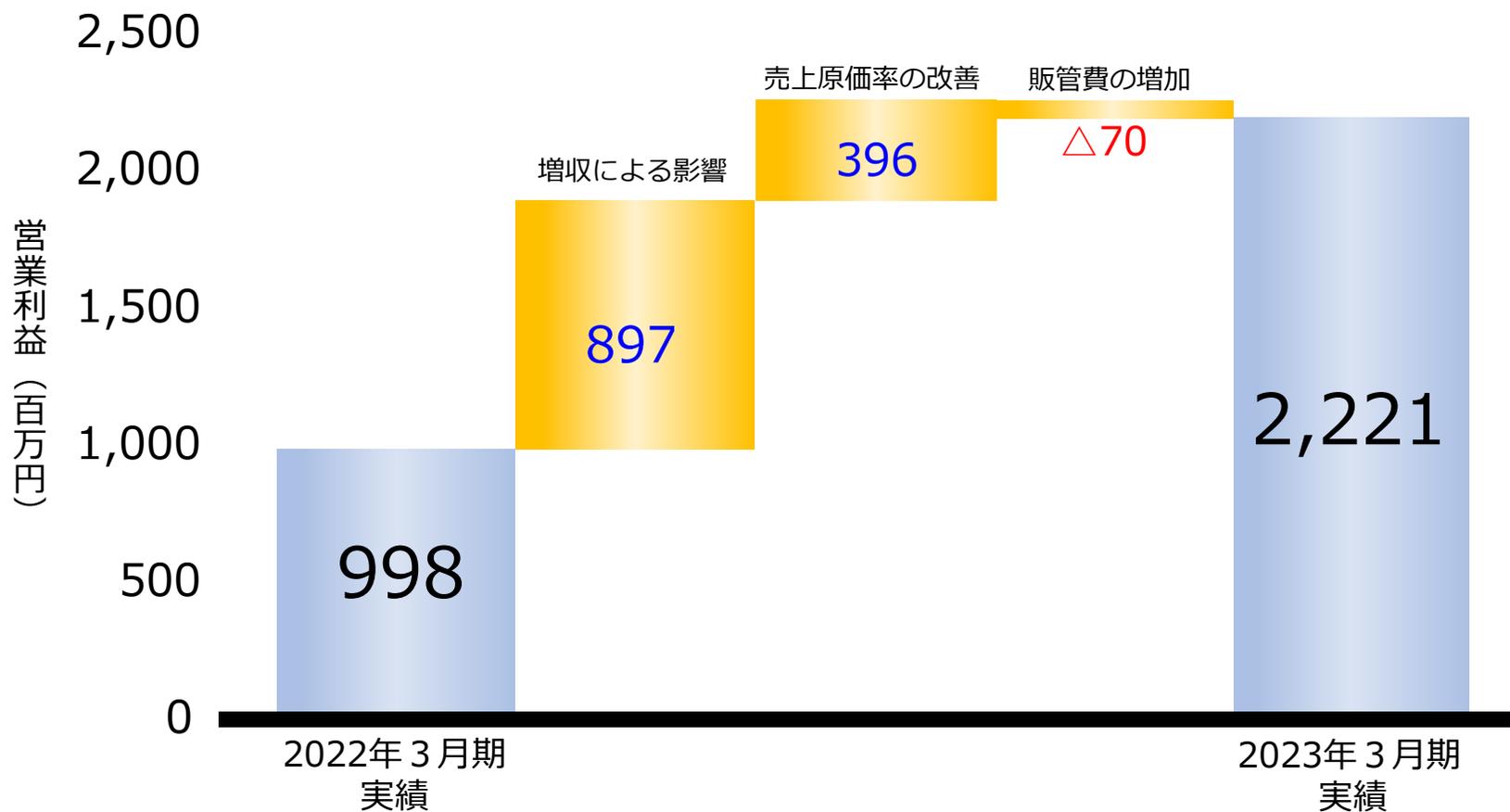
【電子材料・化成品事業】

主に圧電材料、導電性高分子薬剤、界面活性剤、硫酸、無公害防錆顔料を製造、販売。

なお、【その他】は、倉庫業、エンジニアリングおよびセグメント間取引消去額を含んでおります。

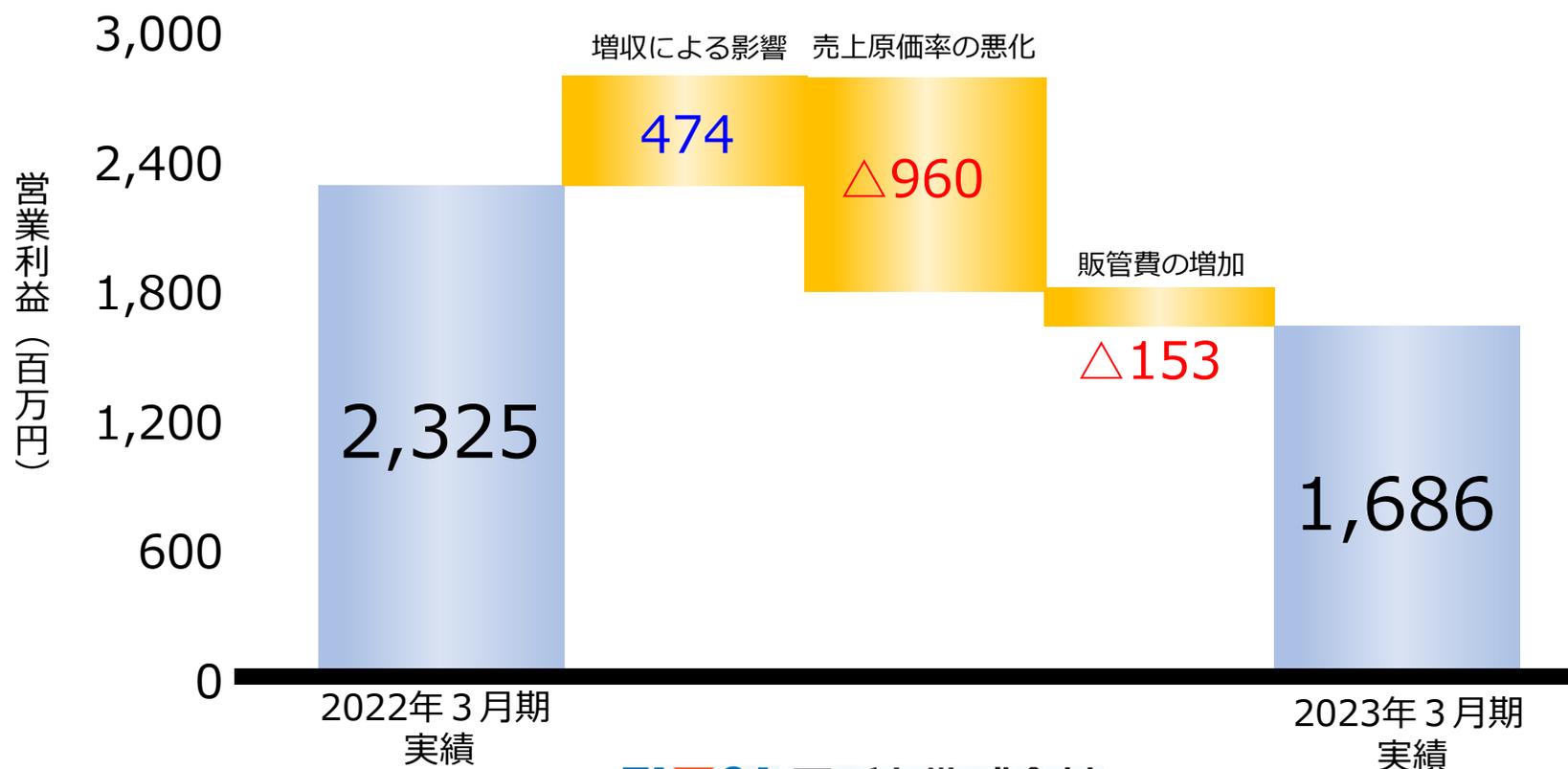
機能性材料事業 売上高、営業利益増減要因

- 汎用用途の酸化チタンは、輸出が中国のロックダウン等の影響で販売数量は減少しましたが、国内向けの需要が徐々に回復したこと等により、売上高は前期を上回りました。
- 機能性用途の微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛、表面処理製品は、米国を中心に海外向けの販売が回復したことにより、販売数量、売上高ともに前期を上回りました。



電子材料・化成品事業 売上高、営業利益増減要因

- 圧電材料は、医療機器用の国内顧客の在庫調整があったものの、海外連結子会社も含め海外顧客向けの販売が堅調に推移したため、売上高は前期を上回りました。
- 導電性高分子薬剤は、ICT機器の需要低迷や5Gインフラの整備遅延に伴う需要低迷により、販売数量、売上高ともに前期を下回りました。
- 界面活性剤は、工業用途の落ち込みにより販売数量は減少しましたが、海外連結子会社の売上増加や販売価格改定を進めたことにより、売上高は前期を上回りました。
- 無公害防錆顔料は、自動車塗料向けの需要低迷により、販売数量は減少しましたが、販売価格の改定を進めたことにより、売上高は前期を上回りました。



営業外損益、特別損益

【営業外損益】

前期に比べて為替差益が減少し、受取損害賠償金等その他項目が増加し、収支はプラスになりました。

科目 (百万円)		2022年3月期	2023年3月期	前期比
営業外損益	金融収支	178	184	5
	為替差益	251	130	△121
	その他	73	178	104
	計	504	492	△12

【特別損益】

固定資産除去損により収支はマイナスになりました。

科目		2022年3月期	2023年3月期	前期比
特別損益	投資有価証券売却益	5	102	96
	固定資産除却損	△157	△549	△392
	出資金売却益	67	—	△67
	リース解約益	21	—	△21
	計	△62	△447	△384

2023年3月期 貸借対照表

- 現預金は前期末比13億円減の116億円、売掛債権は10億円増の151億円、棚卸資産は48億円増の191億円、有形固定資産は2億円減の169億円、投資その他資産は3億円減の105億円であります。

科目 (百万円)	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	前期比	科目 (百万円)	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	前期比
流動資産	42,300	46,631	4,330	負債	20,865	22,058	1,193
現預金	13,060	11,661	△1,399	買掛債務	6,873	6,627	△246
売掛債権	14,089	15,151	1,061	有利子負債	5,007	6,886	1,879
棚卸資産	14,321	19,197	4,876	引当金	360	386	26
その他	828	621	△207	退職給付に係る負債	3,152	3,144	△7
固定資産	29,827	29,085	△742	その他	5,471	5,012	△459
有形固定資産	17,246	16,960	△285	純資産	51,263	53,658	2,395
無形固定資産	1,628	1,526	△101	株主資本	45,725	47,876	2,151
投資その他資産	10,953	10,597	△355	その他包括利益累計他	5,537	5,781	243
資産合計	72,128	75,717	3,588	資産合計	72,128	75,717	3,588

2023年3月期 キャッシュフロー計算書

●当期は資金調達によって財務キャッシュフローが増加したものの、営業キャッシュフローが減少したため、現金等が前期に比べてマイナスになりました。

(百万円)	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	前期比
営業キャッシュフロー	4,841	581	△4,260
税金等調整前当期純利益	4,093	4,270	176
減価償却費	3,212	3,138	△73
運転資金等	△1,632	△5,353	△3,721
法人税等支払額	△831	△1,473	△642
投資キャッシュフロー	△2,807	△2,980	△173
固定資産の取得・売却	△2,473	△2,687	△213
投資有価証券の取得・売却	△106	△23	83
投融資資金等	△226	△269	△43
財務キャッシュフロー	△2,363	825	3,188
借入金・社債増減等	△1,524	1,668	3,192
自己株式取得・売却	△0	△0	0
配当金支払額	△838	△842	△3
現金及び現金同等物に係る換算額	60	173	113
現金及び現金同等物の増減額	△268	△1,399	△1,131
現金及び現金同等物の期末残高	12,981	11,582	△1,399



2. 2024年3月期 通期業績予想

2024年3月期 業績予想

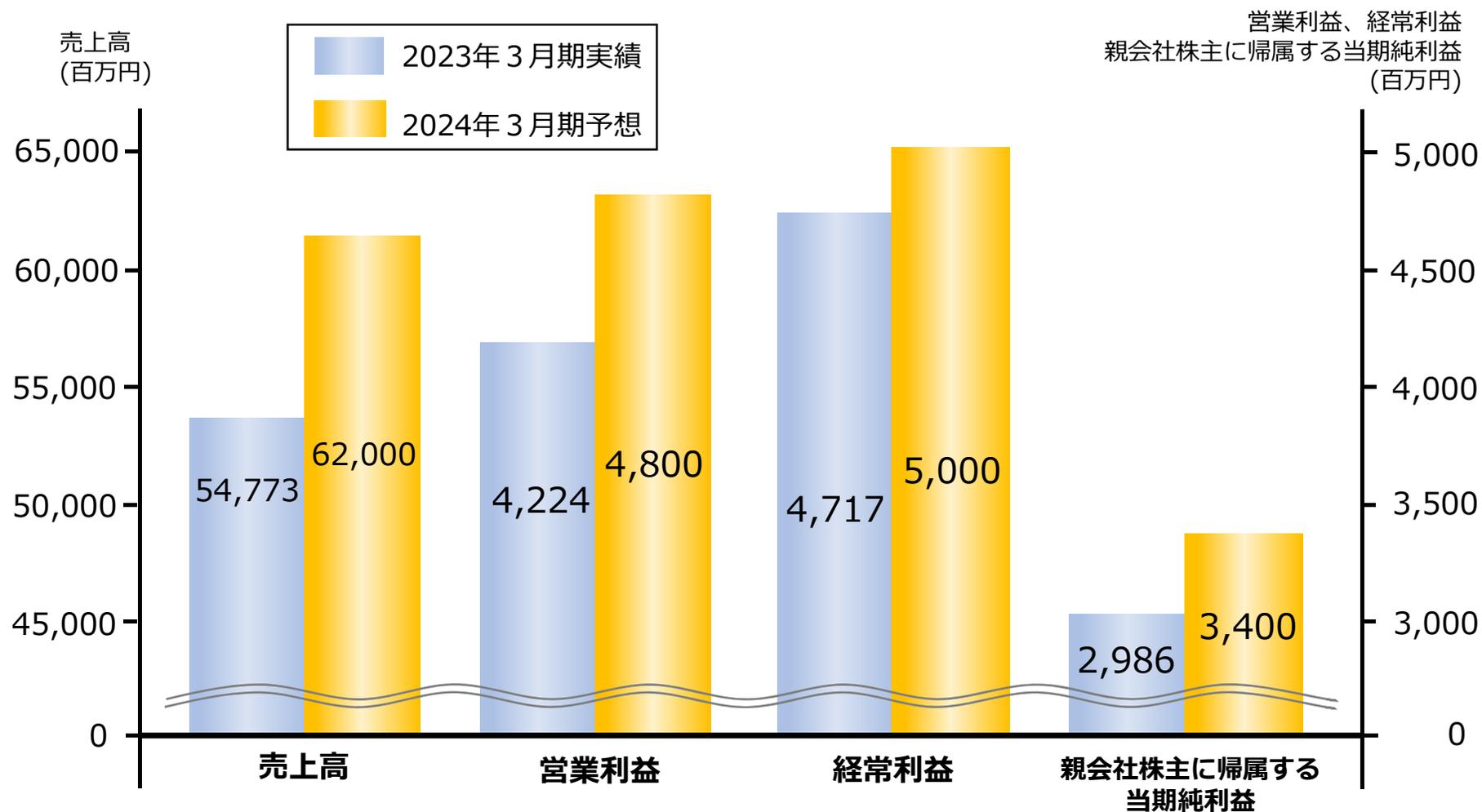
今後の経済見通しにつきましては、高止まりしている原燃料価格、長引くウクライナ情勢などの地政学リスクの高まりに伴うサプライチェーンに対する影響への懸念もあり、先行きは不透明な状況で推移すると予想されます。

2024年3月期 連結業績予想

	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	増減 (%)
売上高（百万円）	54,773	62,000	+13.2
営業利益（百万円）	4,224	4,800	+13.6
経常利益（百万円）	4,717	5,000	+6.0
親会社株主に帰属する 当期純利益（百万円）	2,986	3,400	+13.9

2024年3月期 業績予想

2024年3月期の連結業績予想につきましては、売上高は620億円（前期比13.2%増）、営業利益は48億円（前期比13.6%増）、経常利益は50億円（前期比6.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は34億円（前期比13.9%増）となります。



2024年3月期 業績予想(事業別売上高、営業利益、EBITDA)

【機能性材料事業】

機能性材料事業は増収、増益となる計画であります。

【電子材料・化成品事業】

電子材料・化成品事業は増収、増益となる計画であります。

(単位：百万円)	2023年3月期実績			2024年3月期予想		
	売上高	営業利益	EBITDA	売上高	営業利益	EBITDA
機能性材料事業	27,130	2,221	4,380	33,670	2,250	4,400
電子材料・化成品事業	26,286	1,686	2,839	27,030	2,300	3,390
小計	53,417	3,908	7,219	60,700	4,550	7,790
その他	1,355	316	423	1,300	250	320
合計	54,773	4,224	7,643	62,000	4,800	8,110

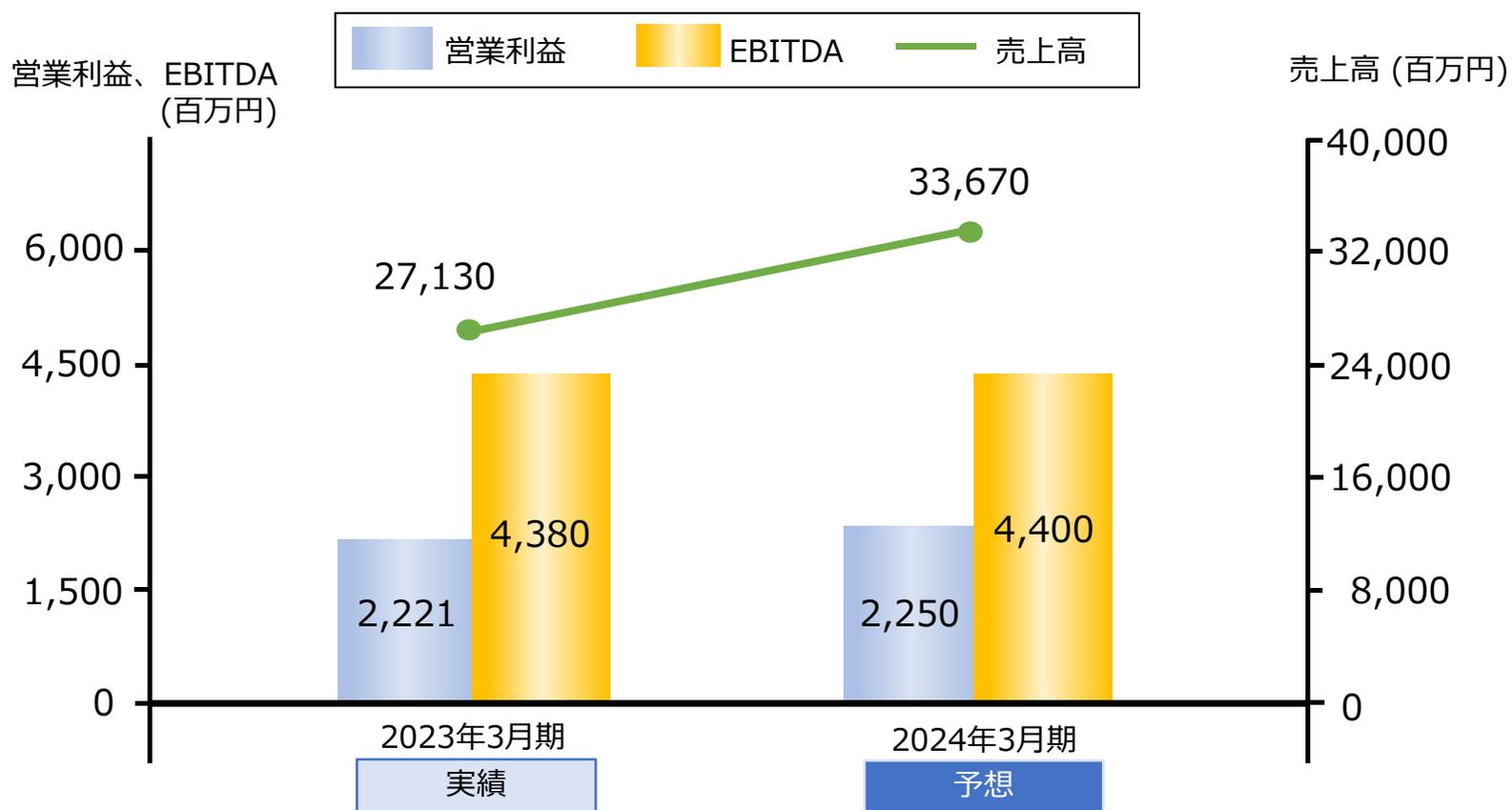
(注)

2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっております。

機能性材料事業 業績計画

【事業環境の見通し】

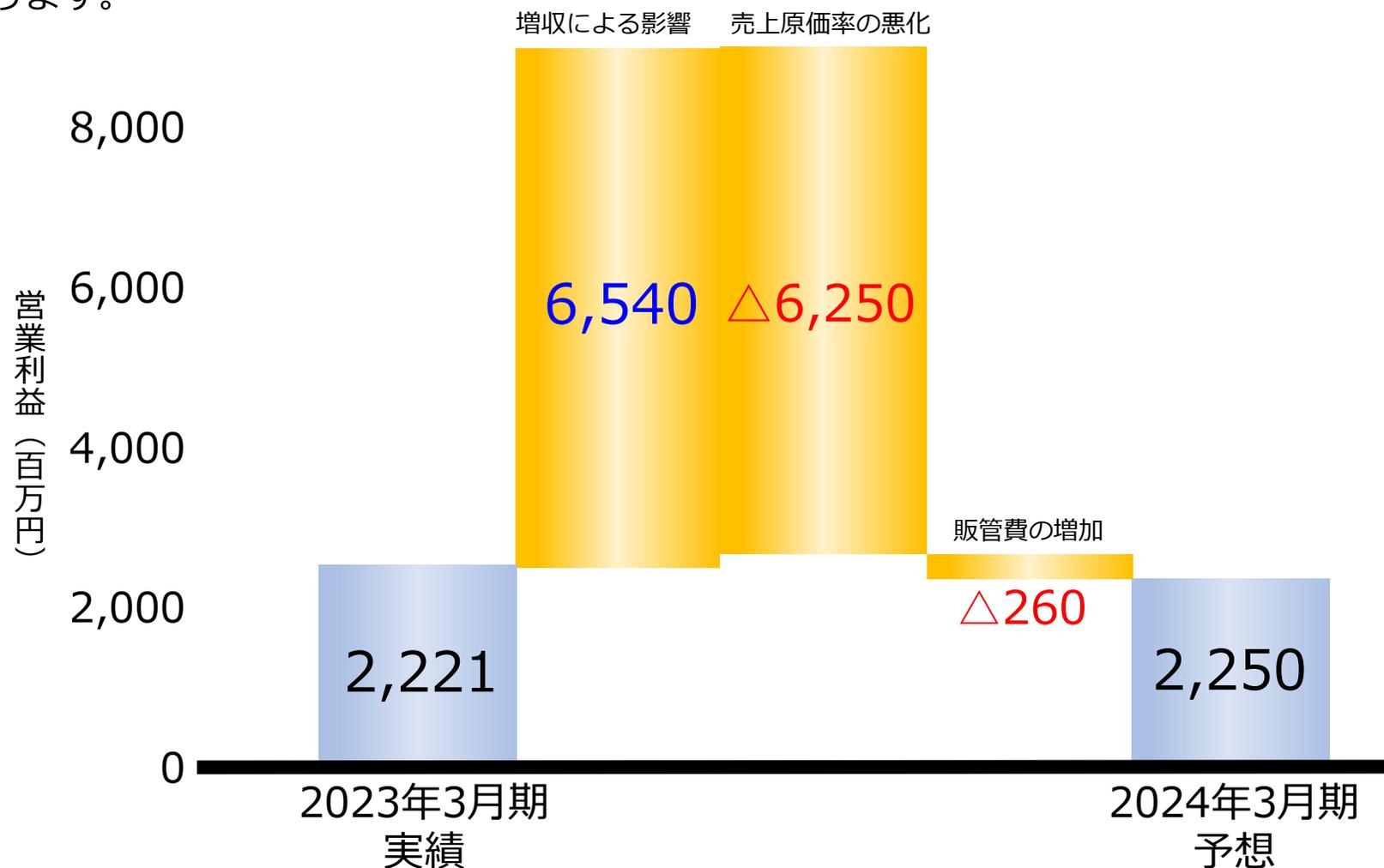
汎用用途の酸化チタンに関しましては、需要回復の兆しはあるものの、原燃料価格の高騰により、引き続き収益面で厳しい状況になると予想しております。機能性用途の微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛及び表面処理製品に関しましては、今後欧米だけでなく、アジア地域でも需要は回復していくものと予想され、各国の市況を注視しつつ販売維持・拡大に努めます。



機能性材料事業 営業利益増減要因

【営業利益】

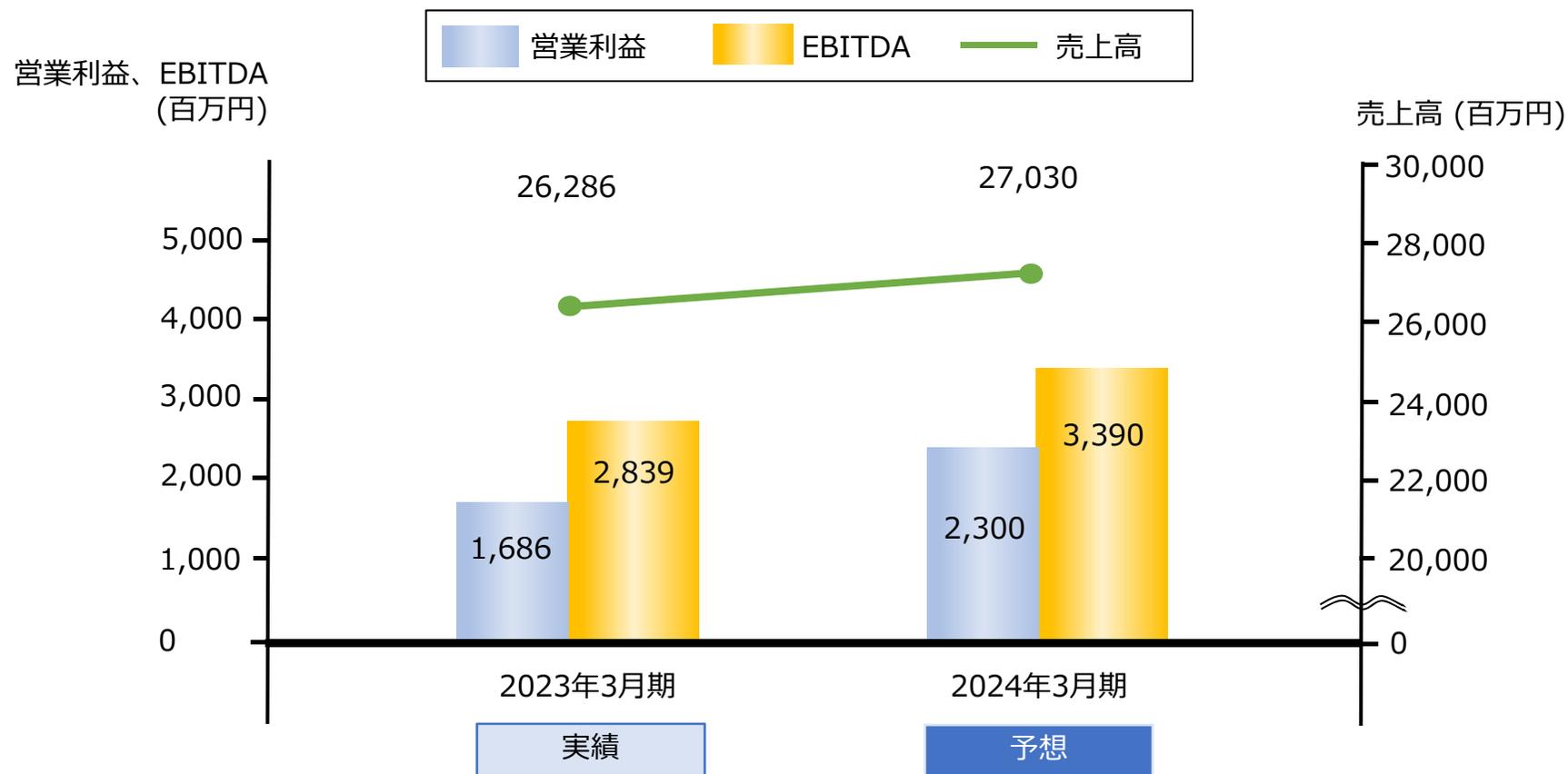
販売は増加するものの、原燃料価格の高騰による売上原価率の悪化が利益を押し下げる見通し
であります。



電子材料・化成品事業 業績計画

【事業環境の見通し】

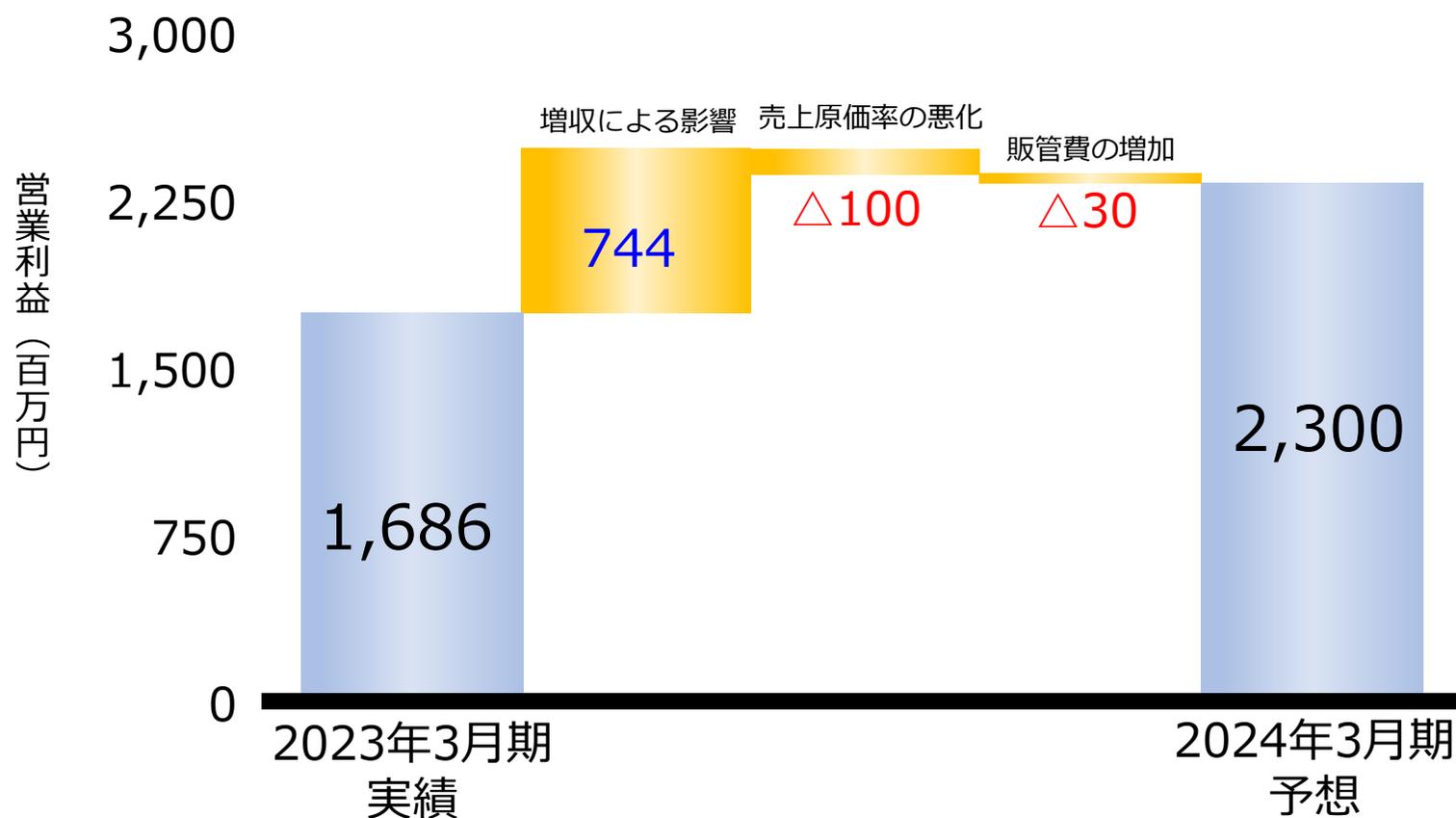
電子材料に関しましては、国内外で需要が好調に推移するものと予想しており、特に圧電振動子については、昨年完成した圧電単結晶材料工場の本格稼働に伴い、日・米両製造拠点から世界各国への安定的かつ効率的な製品供給により、更なる拡販に努めてまいります。また、化成品事業に関しましても、洗剤など日用品向けの需要は堅調に推移すると見ており、タイ・ベトナムの関係会社とともに、世界各地での需要の対応に力を注ぎます。



電子材料・化成品事業 営業利益増減要因

【営業利益】

原料の高騰による原価率悪化の影響はあるものの、販売の増加が利益を押し上げる見通しであります。



経営指標

●経営指標

厳しい経営環境の中、2024年3月期予想については例年並みのものとなりましたが、次期中計では、より収益性を重視した具体的な活動を行い、汎用品から機能品へのポートフォリオシフト、事業の合理化を加速することを盛り込んで企業価値の向上に努めます。

MOVING-10の最終目標である営業利益率15%、ROE12%に向けて邁進してまいります。

	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想
1株当たり当期純利益（円）	122.79	128.86	146.71
自己資本利益率（ROE）	5.6	5.7	6.2
総資本経常利益率（ROA）	5.9	6.4	6.4
売上高営業利益率	7.9	7.7	7.7
自己資本比率	70.6	70.3	70.0



3. 付属資料

長期経営ビジョン

収益性を重視した活動を行い、汎用品から機能品へポートフォリオシフトを加速することで更なる業容拡大と収益基盤の強化を努めます。

(1) 基本方針

「まじめに感動素材」のもと、お客様と真摯に向き合い、妥協なく試行錯誤を行う中から、よりよいソリューションを実現します。

(2) **MOVING-10**の目指す経営指標

164期（2029年度）に以下の経営指標を目指します。

目標経営指標	目標値
営業利益率	15%以上
ROE	12%以上

中期経営計画

「変革による拡大」と「新素材の創出」に重点的に取り組むことで、長期経営ビジョン達成に向けた業容拡大と収益基盤の強化を図ります。

(1) 活動のポイント

- ① 機能性化学品および電子材料事業の更なる拡大（ポートフォリオシフト加速）
- ② 環境エネルギー分野の育成、上市（次世代担う2本目の柱）
- ③ 新たな素材の創出促進（キーワード 「ニッチ市場」×「伸長分野」）
- ④ 業務効率化の推進（生産性向上、自動化）
- ⑤ 人財育成の推進（ダイバーシティ、働き方改革）
- ⑥ S D G s 経営推進による企業価値向上

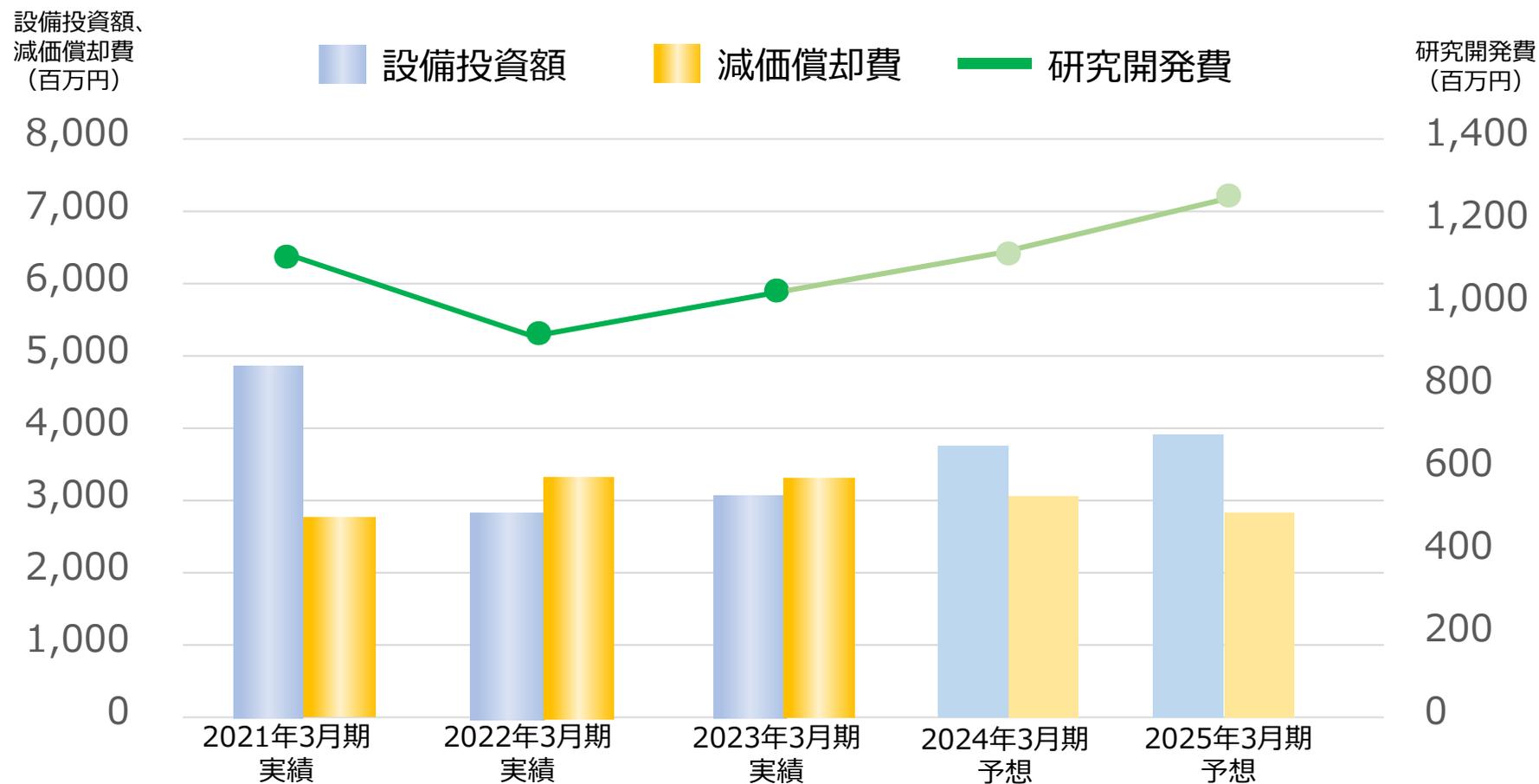
(2) 目標経営指標

目標経営指標	最終年度 2024年3月期
売上高	5 5 0 億円
営業利益	7 5 億円
営業利益率	1 4 %
R O E	9 %
E B I T D A	1 1 0 億円

設備投資・減価償却費・研究開発費

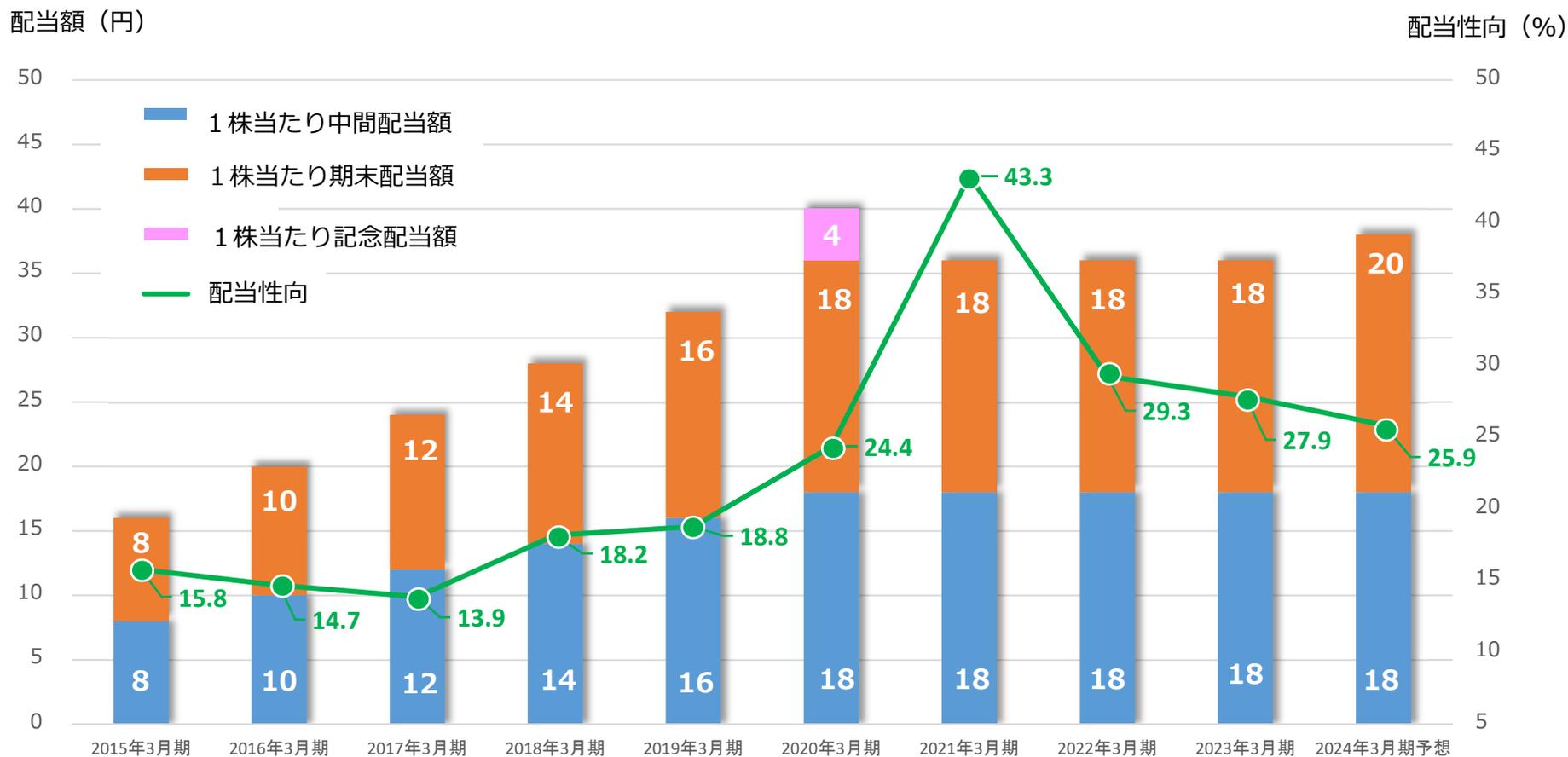
【設備投資額、減価償却費、研究開発費について】

2023年度より二酸化炭素排出抑制にむけ、さらなる設備投資を行っていく予定であります。



株主還元(配当金)

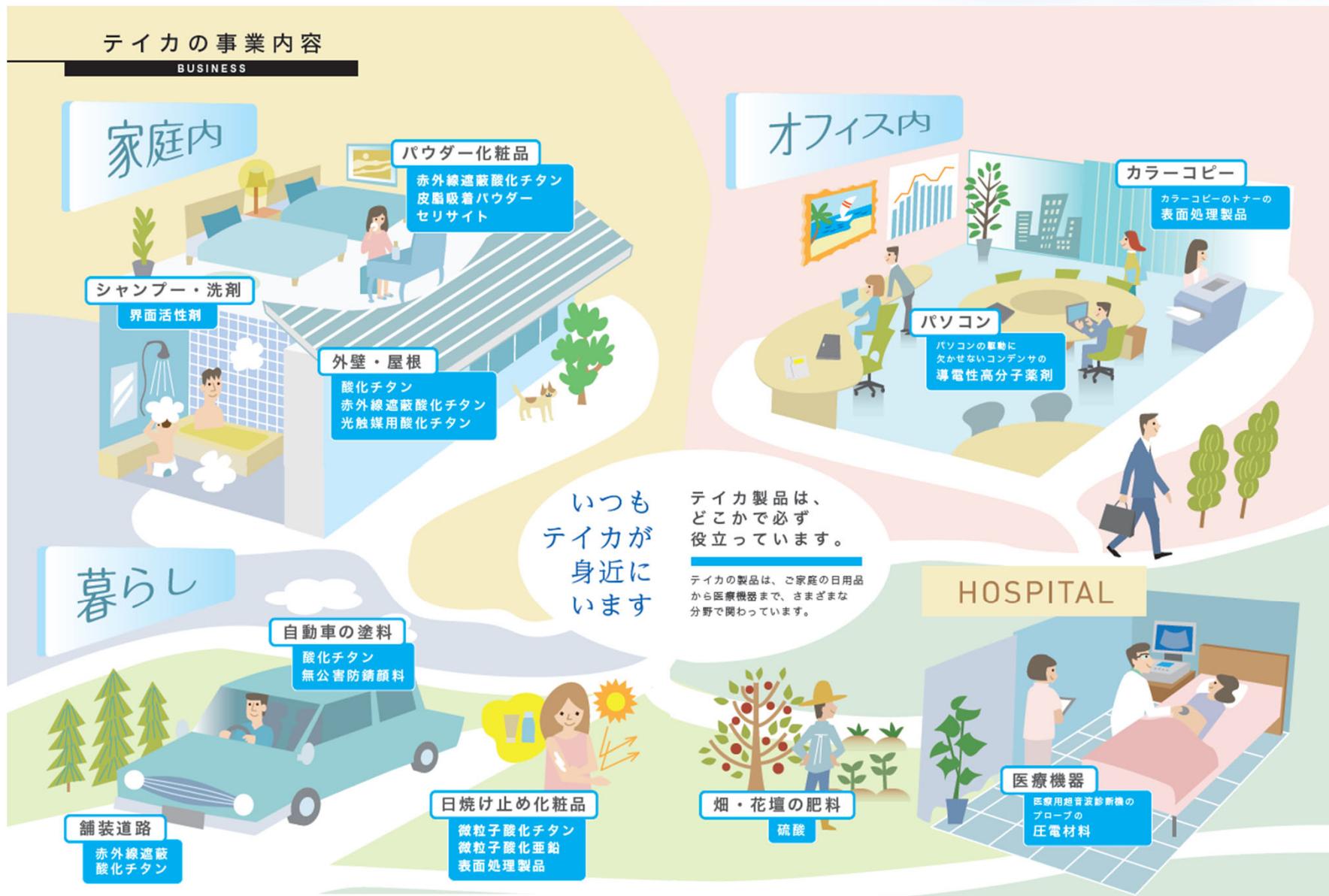
- 当社は基本的に株主に対する安定した利益還元を重要項目と認識し、必要となる十分な株主資本の水準を保持するとともに、各期の業績等を総合的に判断して配当を実施することとしております。



会社概要

- 社名 テイカ株式会社 TAYCA CORPORATION
- 創立年月日 1919年（大正8年）12月22日
- 資本金 資本金98億円
- 年商 547億円（連結 2023年3月期）
- 従業員数 832名（連結 2023年3月31日現在）
- 上場証券取引所 東京証券取引所 プライム市場（証券コード：4027）
- 事業内容 各種化学工業薬品の製造、販売
酸化チタン、微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛、
表面処理製品、圧電材料、導電性高分子薬剤、
界面活性剤、硫酸、無公害防錆顔料 等

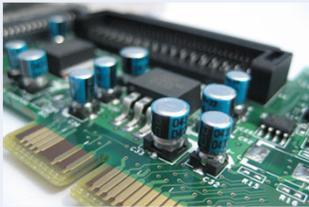
事業紹介



事業紹介（機能性材料事業）

	製品名	用途	概要
機能性材料事業	酸化チタン		酸化チタンは優れた白色顔料として、塗料、インキ、プラスチック、化学繊維、製紙など白いものはもちろん、色のついたもののほとんどに使用されています。 また、白色度、着色力、安全性、化学的安定性など優れた性質をもち、社会のあらゆる分野で役立っています。
	微粒子酸化チタン		微粒子酸化チタンは、一般の白色顔料用酸化チタンに比べてはるかに小さい10~50nmの粒子径を有する超微粒子であるため、例えば、可視光線部における光透過性と紫外部での光遮蔽性が大きい等の特徴ある性質を備えており、しみの原因となる紫外線UVBの遮蔽性に優れています。
	微粒子酸化亜鉛		微粒子酸化亜鉛は、微粒子酸化チタン同様、優れた紫外線遮蔽能力を持つ機能性粉体です。微粒子酸化チタンと比較して、可視部における透明性が高く、しわ、たるみの原因となる紫外線UVAの遮蔽性に優れています。
	表面処理製品		微粒子酸化チタンや微粒子酸化亜鉛等の無機粉体が持つ優れた特徴を最終製品で発揮できるよう、各種有機化合物で表面処理した粉体製品です。表面処理を行うことにより、粉体表面が親水性や親油性に改質され、耐光性や分散性などの特長を付与できます。化粧品原料、プリンターのトナー用外添剤はじめ幅広い分野で使用されています。
	光触媒用酸化チタン		光触媒用酸化チタンは、紫外線や水・酸素などのクリーンなエネルギーによって発現する酸化チタンの酸化力を利用し、有害な有機物を分解・除去します。これら光触媒効果を活用した、汚れ防止効果を付与した外壁や脱臭効果を付与したインテリア等が実用化されています。

事業紹介（電子材料・化成品事業）

	製品名	用途	概要
電子材料・化成品事業	圧電材料		圧電材料は、電圧を加えることで、伸縮を繰り返し振動する現象を利用し超音波を発生させることができます。エコー検査に使われる医療用超音波診断機はこの機能を利用しています。発生した超音波から画像を映し出すことで、エックス線などは使わず、体の中を安全に調べることができますので妊婦検診や心臓・腹部等の診断で多く使われています。
	導電性高分子薬剤		白川英樹博士のノーベル賞受賞で知名度が広まった導電性高分子。添加物を加える「ドーピング」で、プラスチックのような電気が流れない絶縁体を電気が流れる「導電体」に変えます。当社はいち早くこの性質に着目し、当社固有技術と融合させ、様々な要求特性に対応した導電性高分子薬剤を開発。パソコンの駆動に欠かせないコンデンサに使用されています。
	界面活性剤		界面活性剤は、水と油の両方になじみやすい性質をもち、洗浄、乳化、分散、可溶化などの働きを利用して、洗剤、シャンプーなど生活用品から工業分野にまで広く使用されています。
	無公害防錆顔料		当社は、リン酸塩の研究を長年続けた結果、世界に先駆けてリン酸塩Kシリーズ、無公害型防錆顔料の量産技術を確立し工業化したしました。地球環境にやさしい技術として、防錆剤、硬化剤、吸着剤など多用途に利用され高い評価を得ています。
	硫酸		硫酸は医薬品、化学肥料といった化学品産業から金属、鉄鋼といった重工業まであらゆる分野での基礎原料となっています。当社では、創立当初より硫酸の製造を開始。この硫酸を基礎原料に酸化チタン、界面活性剤の製造に着手してきました。